

令和2年度第1回古賀市スポーツ推進審議会 会議録
(要約筆記)

【会議の名称】 令和2年度第1回古賀市スポーツ推進審議会

【日時・場所】 令和3年3月17日(水) 18:30 ~ 20:00
リーパスプラザこが交流館 103 会議室

【主な議題】

1. 開会
2. 教育部長のあいさつ
3. 審議会成立の報告
4. 会長あいさつ
5. 議事録署名委員の指名
6. 概要説明及び議事
(1) 第2次古賀市スポーツ推進計画の進捗状況について
7. その他
(1) 市内運動施設の使用料及び減免基準の見直しについて(報告)
8. 閉会

【傍聴者数】 0人

【出席委員等の氏名】

委員: 木下忠委員、吉永春男委員、中村美恵子委員、柴田麻衣委員、井浦政義委員、大森睦子委員、伊藤一哉委員、多田祐二委員、齋藤光範委員、門田尚之委員、北村俊明委員、吉田直美委員、橋本洋委員、石田英治委員、

青谷昇教育部長

事務局 生涯学習推進課 中村由果課長、吉永ゆかりスポーツ振興係長、荒川登志子主事、渡辺剛主事

【欠席委員の氏名】 薄秀治委員、石田啓委員

【庶務担当部署名】 生涯学習推進課

【委員に配布した資料の名称】

- ・第2次古賀市スポーツ推進計画概要版(リーフレット)
- ・運動・スポーツに関する取組(H31~R2)
- ・運動施設の使用料減免見直しに関するアンケート結果の報告

【会議の内容】

1. 開会
2. 教育部長のあいさつ
3. 審議会成立の報告
4. 会長あいさつ
5. 議事録署名委員の指名
(木下会長)
・議事録署名委員については吉田直美委員にお願いしたい。
6. 概要説明及び議事
(木下会長)
・第2次古賀市スポーツ推進計画概要版について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

- ・第2次古賀市スポーツ推進計画概要版第2次古賀市スポーツ推進計画(リーフレット)について説明する
- ・本計画は2019年から2028年の10年計画である。
- ・本計画は「子ども」「成人」「環境」「地域」の4分野に分かれている。
- ・4分野ごとに、10年後の姿と、そこに向けての取組みを記載している。
- ・本計画は5年目に中間見直す。
- ・本審議会は本計画の年度ごとの進捗を振り返り確認していくことを目的とする。

(事務局)

- ・本年度の取組状況について説明する。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で様々な事業が中止となっている。
- ・コロナ禍でも各団体が感染症対策に苦勞しながら多くの取組がなされている。
- ・まず「子ども」分野について説明する。
- ・こがっ子元気アップチャレンジは平成31年度で終了し、様々な地域活動に移行しました。
- ・市が主催する行事についても、拠点型から地域型に目を向けた取組みを実施した。
- ・スポーツ推進委員が公園運動広場で遊ぶことのできる体験プログラム創出の研究を開始した。
- ・体力向上推進会議は書面による開催。
- ・社会教育と部活動の連携についての課題解決の為、令和3年度より行政とスポーツ協会プロジェクトチームを作り協議をする。
- ・熱中症対策アドバイザーの講座をオンデマンドで開催した。
- ・次に「成人」分野について説明する。
- ・市民健康スポーツの日は、感染症対策を実施したうえで、ウォーキングサッカーや各種体力測定を実施した。
- ・介護支援課では介護予防活動の普及啓発を行うため、ボールゲーム大会をリモートで実施した。
- ・北九州にある障がい者野球チーム「北九州フューチャーズ」を招待し、古賀市草野球愛好家と交流野球大会を実施した。
- ・次に「環境」分野について説明する。
- ・市内運動施設の使用料と減免基準に見直しについては後ほど説明する。
- ・感染症対策の一環でインターネットの活用が進んでおり、市でもLINEやFacebookなどを利用しスポーツ情報を発信している。
- ・プラス10分でぶらってん、ドウは道、動き、DOを意味する、プラッテンドウの取組を開始した。
- ・最後に「地域」について説明する。
- ・スポーツ推進委員が出前講座を活用し地域に出て、スポーツを支える人材の育成と発掘を実施している。
- ・大規模国際大会を契機とした地域活性化の取組として、市内6小学校と在日ルーマニア人によるリモート交流を実施。
- ・またルーマニア柔道チームへの応援メッセージ動画の募集を実施。

(木下会長)

- ・第2次スポーツ推進計画の取組状況についてご意見や質問がある方は発言をお願いします。

(齋藤委員)

- ・P2「4. スポーツのユニバーサルデザイン化」に行政の取組の記載しかない。
- ・こっこの会主催でパラバトミントン講座を開催したので追記をお願いしたい。
- ・パラバトミントン講座は平成31年度に実施、令和2年度はコロナの為に練習ができず中止。
- ・コロナを打つ！交流野球大会については障がい者チームと健常者チームの交流であることを記載して欲しい。
- ・身体障がい者の野球で、キャッチャーが椅子に座っていたり、走れない打者には審判の後ろにいる代走者が走るなど見ている面白い。

(木下会長)

- ・バドミントン以外の種目はやっていないのか。

(齋藤)

- ・去年は車いすバスケなどを行政でやっている。

(事務局)

昨年は小学校で車いすバスケを実施した。道具は県から借用した。

(木下会長)

- ・障がい者スポーツという名称がパラスポーツに変更になる。

(齋藤委員)

- ・身体的障害と知的障害がある。知的障害は組織が違う。
- ・知的障がい者はスペシャルオリンピックス。パラオリンピックには入らない。正しい使い分けが必要。
- ・古賀市でもテニスのスペシャルオリンピックスをやっている。
- ・玄界高校の生徒さんも指導に来てくれている。

(吉永委員)

- ・スペシャルオリンピックスは知っていたが、古賀市でしているのは知らなかった。

(木下会長)

- ・我々が知らないということは、古賀市民の大半が知らないのではないかな。

(柴田委員)

- ・特別支援学級の子も一緒に楽しく授業を受けられるというのがいつも課題としてある。
- ・本審議会で生徒みんなが楽しく授業を受けるように、授業の導入部分のアイデアを得られればと思う。
- ・1クラスに3～4人、全校で50人以上、特別学級の生徒がいる。
- ・ほかの生徒についていけないから体育が嫌いになったり、孤立したりしてしまう。
- ・特別学級の生徒を育てると同時に、周りの生徒も育てることが大切。

(齋藤委員)

- ・ボッチャは障がいの有無が全くハンディにならないスポーツである。

(木下会長)

- ・クロスパルはどうですか。

(門田委員)

- ・コロナの影響はある。感染症対策など制限をかけながらも安心して利用していただいている。
- ・お客様とコミュニケーションをとり、良い関係性を築くのが大切。
- ・古賀市は環境が良く、屋外でのフィットネスがしやすいという印象。

(木下会長)

- ・ルートプラスさんはどうですか。

(伊藤委員)

- ・子供たちの運動教室を、地域の施設を活用し開催している。
- ・スポーツでお金を取る、仕事にすることでやっている。
- ・私たちの活動が共働き世帯の助けになればよい。
- ・幼稚園から小学生が対象、全体で1000名、古賀市で60名。

(木下会長)

- ・スポーツは今後、無料でできるという考え方がなくなっていく。

(伊藤委員)

- ・総合型地域スポーツクラブとして活動している。
- ・上手い下手に関係なく、指導者派遣型でやっている。

(吉田委員)

- ・コロナ禍の影響で高齢者の外出が減って筋力の低下、認知機能の低下が発生している。
- ・若い方でも特定検診を受ける方が少なくなっているのに、メタボ対象者が増えている。
- ・マスクをして、感染症対策をしているので感染症の件数は減っている。
- ・肥満からくる健康悪化が増えている。
- ・ライフステージに応じた運動をクロスパルなどと連携して実施していきたい。
- ・地域活動に行くことも運動になっていたが、地域活動がなく機会が減った。

(木下会長)

- ・スポーツ協会はどうか。

(吉永委員)

- ・スポーツ協会加盟団体は、スポーツがもっと世の中を変えるものになってほしいと言っている。
- ・スポーツに関する広報を強化し、スポーツを身近に感じれるようにしたい。

(木下会長)

- ・スポーツ推進委員はどうか。

(大森委員)

- ・公民館と連携し、参加人数をしばって活動している。
- ・12回実施して、いろんな人に来てほしかったが8人くらいに固定されてしまった。
- ・終了後も続けたいという声をいただいたので、お金をとり講師を呼ぶことで活動を継続する。
- ・こういった少人数での取り組みを広げていきたい。

(木下会長)

- ・スポーツ推進委員は全校区からでていますか。

(大森委員)

- ・千鳥校区はいません。

(木下会長)

- ・各校区から1名は欲しいですね。
- ・社会福祉協議会はどうか。

(多田委員)

- ・高齢者が用心して外に出ないという状況下でも、スポーツに限らず予防健診課と協力して外に出て活動するようにボランティアと呼び掛けている。
- ・体力の低下より、認知機能の低下が大変なことになる。
- ・初めてお会いする団体もあり、今後協力して事業をやっていききたいと考えている。

(木下会長)

- ・小学校はどうでしょうか。

(井浦委員)

- ・子供たちも、自粛要請などに疲弊している。
- ・解除された後も、今までどおりというわけにはいかない。
- ・元気アップや地域活動など、自分たちが通う学校でこういったイベントがあると子供たちもよってこれる。
- ・少人数でもできる何かが必要。

(木下会長)

- ・まちづくり推進課はどうでしょう。

(北村委員)

- ・市民活動団体の登録をつながり広場でやっており、スペシャルオリンピックスさんは登録されている。
- ・千鳥が池公園での練習を手伝ってほしいと相談に来たのが登録のきっかけ。
- ・玄界高校にボランティアのお願いにいったところ、部活動を引退した学生が手伝ってくれることになった。
- ・社会に貢献しようという考え方がでてきていて、スポーツにもつなげられると考える。
- ・スポーツとボランティア、支援する人の育成につながればよい。

(木下会長)

- ・玄界高校はどうでしょうか。

(中村委員)

- ・コロナがなければという思いが強くなった。

- ・高校も、県の指示で部活動に制限がある。
- ・部活できないのでケガが増えた。
- ・今後何年も体力の低下などの影響がでるのではないかと。
- ・学年ごとにクラスマッチ形式で体育祭を実施し、青空の下で楽しそうにしていた。
- ・令和3年度は知恵をしぼってできることを実施する。
- ・本校はOBが毎週のように来て活動に協力している。その影響もあり現役の生徒も役に立ちたいという思いがある。

(木下会長)

- ・青少年育成課はどうでしょう。

(橋本委員)

- ・地域の集会所で軽スポーツなどを20回以上実施していたが、今年度は開校式があったかと思ったら次は閉校式だったということもあって、地域がどうなっているかが心配。
- ・地域の中でどう人々が動けるか、指導的な立場の人をどう育成するのが心配。
- ・地域の人材をどう育成するのが行政に確認したい。

(事務局)

- ・ウォーキングについては予定通り講座を開催し、20名程度の参加があった。
- ・地域の活動支援が必要。
- ・スポーツ推進委員が地域に出て行っておりそういった方々を増やしたい。

(大森委員)

- ・私自身がヨガの資格を取得した。またピラティスの資格をもっている推進委員を発掘してきた。

(橋本委員)

- ・コロナ禍なので、個人でどこでも活動していけるスポーツの普及、指導員の育成が必要。

(木下会長)

- ・たくさんの意見が出された。進捗報告については以上とする。

(事務局)

- ・使用料についての状況説明。

(齋藤委員)

- ・中学生以下の団体が負担すべきでないとする理由は回答の選択方式だったのか確認したい。

(事務局)

- ・アンケートを集計するときにかいつまんだ言葉に変更している。

(齋藤委員)

- ・ジュニアは中学生以下ではないか。

(事務局)

- ・本アンケートは中学生以下を子どもとして扱っている。

(齋藤委員)

- ・ジュニア団体は週に何回も使っているので、大人の団体に比べ値上げの影響が大きいのではないかと。
- ・納得していただくにはよい策が必要。

(事務局)

- ・ジュニア団体で最大で週4回、年換算で数十万円の負担になる。
- ・受益者負担といわれても負担が重いという声は届いている。
- ・どう折り合いをつけるのかは課題である。

(木下会長)

- ・使用料の変更については令和5年度を目指してということであったので、今後も審議会でも扱いたい。

・以上で、第1回古賀市スポーツ推進審議会の審議を終了する。ご協力ありがとうございました。